

## 職業能力評価基準(エンジニアリング業)レベル区分の考え

レベル	レベル区分の目安
レベル 4	<p style="text-align: center;"><b>マネジメント系</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大規模、難易度の高い、または業績影響度の大きい組織・プロジェクトの責任者として、目標を設定し、広範かつ統合的な判断及び意思決定を行いながら組織を統率するために必要な能力水準。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>スペシャリスト系</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高度な専門技術を有し、大規模または難易度の高い担当分野における技術開発や問題解決等を通じて、企業利益を先導・創造するために必要な能力水準。</li> </ul>
レベル 3	<p style="text-align: center;"><b>マネジメント系</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中小規模でかつ難易度がさほど高くなく、業績影響度が通常程度の組織・プロジェクトの責任者として、上位方針を踏まえて担当組織の業務計画作成や管理運営を行うために必要な能力水準。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>スペシャリスト系</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高度な専門技術を有し、中小規模でかつ難易度がさほど高くない担当分野における技術開発や問題解決等を通じて、企業利益を創出するために必要な能力水準。</li> </ul>
レベル 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループやチームの中心メンバーとして、創意工夫を凝らして自主的な判断、改善、提案を行いながら業務を遂行するために必要な能力水準。</li> </ul>
レベル 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>当者として、上司の指示・助言を踏まえて日々の業務を確実に遂行するために必要な能力水準。</li> </ul>

## エンジニアリング業におけるキャリア形成の例

